

第 3 2 回能美市地域公共交通会議 議事録

日時：令和元年 1 1 月 2 8 日（木） 13：30～15：00

場所：能美市役所本庁舎 1階 大会議室

参加者：

	所 属	氏 名	備 考
学識経験者	金沢大学理工研究域地域社会基盤学系・系長	高 山 純 一	会長
議会	総務産業常任委員会委員長	田 中 策 次 郎	
市民又は 利用者代表	辰口地区町会長会 会長	池 田 秀 一	
	寺井地区町会長会 会長	重 田 勝 年	
	根上地区町内会長会 会長	本 多 他 家 志	
	北陸先端科学技術大学院大学 総務課長	山 本 修	
	石川県立寺井高等学校 教諭	寄 島 昭 生	
	能美市老人クラブ連合会 会長	田 中 悠 紀 夫	
	能美市婦人団体協議会 顧問	田 中 玉 美	
事業者	能美市 P T A 連合会 副会長	山 岸 千 恵	
	小松バス（株） 専務取締役	新 谷 良 二	
	加賀白山バス（株） 取締役社長	茜 栄 成	
行政	一般社団法人石川県タクシー協会 専務	宮 崎 芳 信	
	国土交通省北陸信越運輸局石川運輸支局 主席運輸企画専門官	木 村 幸 典	
	石川県企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 主幹	福 野 陽 子	
	石川県南加賀土木総合事務所 維持管理課長	田 中 尚 人	
	能美警察署 交通課長	村 本 寛 之	
	能美市 副市長	細 川 喜 孝	副会長
	能美市 企画振興部長	橋 場 和 彦	
	能美市 健康福祉部次長兼福祉課長	川 本 素 子	
事務局	能美市 土木部土木課長	中 川 真	代理
	能美市 企画振興部地域振興課長	中 出 真 弓	
	能美市 企画振興部地域振興課主任	長 田 史 彦	
	能美市 企画振興部地域振興課主事	馬 場 智 也	

■議事

1. 開会

【司会（中出）】：

定刻となりましたので、ただいまから第32回能美市地域公共交通会議を始めたいと思います。本日の司会を務めます、地域振興課の中出です。よろしくお願い致します。本日はスクリーンを使って説明する場面がございますので、事務局はこの位置とさせていただきます。ご了解ください。では、最初にお手元でございます資料の確認をさせていただきます。資料ですが、A4縦の「会議次第」、次に、「委員名簿」、「能美市地域公共交通会議設置要綱」、そして、本日の会議にご出席の皆様の「座席表」、次に、「資料1」と「資料2」が準備されているはずですが、不足はございませんでしょうか。

それではお手元の会議次第に沿って進めさせていただきますが、申し訳ありません。今まで会長をしていただいております高山先生が、急遽所用のために2時頃の到着予定となっております。ご了承ください。最初に当会議開催に先立ちまして、能美市副市長細川喜孝がご挨拶を申し上げます。副市長よろしくお願い致します。

2. 挨拶

【細川副市長】：

皆様こんにちは。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日の議題ですが、例年の案件ということで、「令和元年度辰口中学校冬季通学バス運行について」、このひとつでございます。お忙しい中、集まっていただきまして、このひとつの案件というのもあまりにも失礼かなということございまして、意見交換として、来年度のみバス、「わかりやすさ」・「便利さ」というところに重点を置いて、大幅に見直しをさせていただきます。非常に便利になるという風に思っております。

そういう中で、のみバスが中心でございますけれども、能美市では今、我が事丸ごと地域づくり推進事業というものをやっております、特に交通弱者である高齢者の移送の取り組み、そういうものにも力を入れていきますし、今日、運輸支局さんの方からモビリティ・マネジメント（以下MM）ということで、お話をいただくということで、まさに、自動車に大きく頼らない形で、のみバスを中心に、能美市としても先ほどお話しした、我が丸の移送の取り組みであったり、町会・町内会さんの取り組みであったり、色んなものをうまく組み合わせて、本当に、過度に自家用車に頼らない形で、しっかりとした能美市としての交通の基盤を気づいていくということでも、少し今日は皆様方にご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。皆様、今日はよろしくお願い致します。

3. 委員紹介

【司会（中出）】：

ありがとうございました。続きまして、委員紹介を行います。委員の任期は2年となっており、本日は新たな人気を迎えた最初の会議となりますので、出席いただいております皆様のご紹介をさせていただきますと思います。お手元の委員名簿の順にお名前をお呼びしますので、ご起立、ご着席の方よろしく願います。

【司会（中出）】：

どうぞよろしくお願いいたします、

本来ならばここで、委員編成にあたりました、会長・副会長の選任となりますが、会長をお願いしたいと思っております高山先生が今こちらの方に向かっているということですので、先に意見交換の時間から進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

6. 意見交換

－事務局（長田）より資料説明－

- ・資料2 のみバスの見直しに伴う利用促進について

【事務局（長田）】：

石川運輸支局の木村専門官よりMMのはじめかたということで、お話ししていただきまして、今ほど高山先生が来ましたが、先生の進行の下、のみバスの見直しに伴う今後のMMの在り方について、皆様に意見をひとつずつ伺っていただければなと思っておりますので、まずは木村専門官のお話しをお聞きいただきたいと思っております。すみません、準備があるのでもうしばらくお待ちください。

－木村委員（石川運輸支局）より資料説明－

- ・資料2 MMのはじめかたについて

【司会（中出）】：

ありがとうございました。それでは、県内の公共交通の第一人者であります、金沢大学の理工研究域地域社会基盤学系・系長の高山先生がお見えになっておりますので、今後の意見交換会は、高山先生の進行の下よろしくお願いいたします。

【高山会長】：

はい。申し訳ございません。遅れてしまいました。それでは、少しご意見の交換ができたらと思っています。「MM」という言葉を聞いたことがあるという方、恐縮ですけど、挙手していただけますか。ほとんどの方は、今日初めて聞かれたという方が多いですかね。それが普通だと思います。大学の方と言いますか、学会の方では20年ぐらい前から、MMは大事だよということで色々研究も行われていますし、国土交通省で先ほどあったように、本格的な取り組みを始めていると。もうちょっと前かもしれませんが、そういう状況です。ですからある意味、非常に重要な概念ですし、皆様ご承知かもしれませんが、能美市のみバス走らせていますけど、決して自活して走っているバスではないことはご存知だと思います。税金がかなり入っています。運営費だけでもおそらく収益が2割前後ぐらいですかね。まあ言ってみれば、100円稼ぐのに500円ぐらいかかっている。言い方悪いかもしれませんが、せっかくそういう意味では、かなり市民のために、地域の方々のために、のみバスを運行しているということも皆様方、非常に市民の方にご理解いただいて、利用してもらわないと、ある意味言い方悪いですけど、税金の無駄になるということだと思います。どうですかね。積極的に利用しようと思う方も当然いるわけですよ。あるいは、のみバスしか利用できない方も。市民の中には免許がないとか免許がとれないといった年齢の方はバスやタクシーに頼らざるを得ない。もちろん天気が良くて、お元気だと自転車で移

動するという方もいますけど、雪が降ると厳しくなります。すると、ここでいう利用促進のためのMMという考え方が非常に重要なと思います。こういう考え方今日初めてお聞きになった方、非常に多いわけですけど、まず、事務局あるいは専門官のお話を聞かれて、どんな感想を持たれましたか。

【細川委員】：

私もMMと聞いたときに、今日説明を受けて、要は、利用促進のコミュニケーションの働きかけが主だという風に説明を見まして、初めて、「そうだったのだ。」と思ひまして、最初MMを聞いたときは、効果的なのみバスとか、今うちでやろうとしている互助の力で高齢者の移送の取り組みであったりとか、当然、鉄道であったりとか、ベストミックスみたいな、効率の良い交通体系、そういうものを目指しましょう、そういう認識でいたのですけれど、違うのだなと認識いたしました。

【高山会長】：

今日、お聞きして、上手に説明されたので、わかりやすかったかなと思うんですけど、どんな感想でもいいです。

【田中策次郎委員】：

実は2年ぐらい前に、議会の中で、公共交通の特別議会で色々お話を伺う機会がありまして、のみバスについても学ばせて頂いた経緯がありますけど、今、お話しいただいた情報提供のところで、職場のようなどころがありましたけど、一番大事なのかなと思います。商工課のところでも色々とお話を聞いていますと、外国人労働者の方々が非常に多いです。その方々かなんとかのみバスを利用できないかと、そういう方々に発信するのが今後利用促進に繋がっていくのではないかなと思ひ話を聞いておりました。

【高山会長】：

では、恐れ入りますが、順番に感想だけでもいただければと思います。

【池田委員】：

まだ、ピンときていないんですけども、「いかに公共交通を利用するか。」だけを考えてしまうのですが、一人一人の移動を考えたときに、どうしても我々は車社会なので、自家用車が便利というところから考えられない。かといって出張で東京や大阪、名古屋なんかに行くと、そこでわざわざレンタカーを借りる人は少ないと思います。移動手段にしても、金沢なんか例えば、駅から香林坊に移動するときもバスでの移動が昼間はあります。そういったところで、どう繋げていくか、どういう体制をとるか、どういう需要があるか、その辺を調査しながら進めていけると良いと思います。

【重田委員】：

のみバスである公共交通の利用促進、そういうことが次第の今ほどの話だと思いますが、MMの話を聞きながら、公共交通ってというのは、一定の路線、一つのルートが固定されています。そういう面もあったと思うので、それだけでは利用しにくいというか、なかなかその便を利用できないケースも出てくると思います。文言的に書いてありましたが、個別的なサービスとか移送サービス、そういうようなものを考えていかなければならないのではないのかなと思います。先ほどののみバスの話を離れた話に

なりますけど、モビリティってことに関しては、きめ細かいそういった対策もあってもよいのではないかなと思います。

【本多委員】：

生活の位置によっても変わってくるのではないかなと思います。私はこの間、東京に出張しまして、東京とか大阪とか、公共交通機関がものすごく発達しており、反面結構歩かなければならない。お年寄りの方も歩いていますけど、我々車で行動しているので、疲れてしまいまして、1万8千歩ほど歩きました。そういう現象も出てくると思います。以上感想です。

【田中悠紀夫委員】：

新しい体系では是非進めていかなければならないと思います。先ほど田中策次郎さんもおっしゃいました外国人がいかに利用していただくということ。私、大成町におきまして、アパートがあります。あの人たちに説明したって日本語がわからない。その辺で、この12月から始まるこの市民説明会には、ぜひベトナム語がわかるような通訳を入れて、説明して欲しいと思います。

【田中玉美委員】：

今日初めて聞いたMMという言葉なのですが、いかにして公共交通に乗りたいたいだけでもどうして乗っていいかわからないという方がまだまだたくさんいらっしゃると思いますので、そういう人たちにどう話を進めていくか、分かりやすく説明していくか、というのをまず進めていければいいかなと思います。

【山岸委員】：

私もMMという言葉は初めて聞いたんですけども、特に子どもたちにそこをいかに、公共交通手段を利用していくんだよと意識づけていく、今後教えていくこと、意識づけさせていくことが大切なのかなと思います。

【田中尚人委員】：

まず、高山先生より収益が2割程度とありましたが、収益をどうやって上げていくかが重要な課題かなと思いました。

【福野委員】：

MMという言葉を目にすることはあったのですが、今日初めて意味を持つ言葉だと知りました。公共交通というのは、使っていただけないことには維持も確保もできないと、ところで、当然こういったところで、必要になってくるとは思いますけど、自動車が便利だということが染み付いてしまった、私もそうですけれども、意識をどう変えていくか、非常に大変だと思いました。先ほど頂いた資料の方にいろんな取り組み出ていますけど、かなりの労力をあげて、福岡市の方も色んな家庭訪問などしながら、車の利用率22パーセント減。こういった取り組みをやるのは、かなり労力が必要ですし、継続していくにはどうしたらよいのかなというところで非常に悩ましいところかなと思ひまして、お話を伺っていました。

【村本委員】：

MMということで、私もあまり聞いたことがなかったのですが、先の説明で、能美署管内の高齢者の免許自主返納率が県内で一番低いということで資料に書いてあります。実際はこれを見ますと、公共交通機関の利便性が低いから返納が低いのかなと思います。警察にしても、事故を減らす側面もありますので、もっと自治体の方と協力して、免許返納しても公共交通機関がありますよということをアピールできれば、もう少し数字も上がって、結果としてMMに繋がっていくのではないかなと思います。

【山本委員】：

MMの対象でもあるし主催者でもあります。MMご存知のように、大学ではスクールバスを運行しておりますが、残念ながら能美市の方に向かっていない。とても申し訳ないなと思っております。鶴来や小松の方にしか出していない。それをいかに能美市の方に向けるかというのは、私たちの課題でもあります。そういう意味では、この資料にもありますけど、かなり細かいこういったバスがあるからぜひ使ってほしいということで、働きかけが素敵だなと実感しました。MMの話でいうと、私どものバスも必要以上に、実は朝の6時台から夜の10時台まで、かなり遅く走らせていまして、それが適切かという話もありまして、そういった形で大学単体、能美市さんのみバス単体ではなく、大学と能美市が協働して、最終的には資源の無駄遣いをせず、お互い良いものを目指していきたい、そんな風に思います。

【寄島委員】：

寺井高校の生徒たちが使っていくことになるものではないかなと思っておりますが、本校の生徒につきましても、ほとんど自転車で登校する生徒、親御さんが送っていただく生徒という感じになっておりまして、のみバスを利用している生徒からは、のみバスをもっと大きくして欲しいとか、便を増やして欲しいとか言う話があるのですが、学校側としてもできるだけ公共交通機関、安心安全でかつ時間にも遅れないということで、利用をできるだけ促していきたいと思っております。先ほどお話からも、公共交通機関の必要性とかそういうことを学校でも学ばせながら、安心安全に学校に来れる手段ということで、何かご協力できることはないかなと思っております。この時期雨とか降りますと、車で学校まで渋滞してしまっていて、のみバスで来れば、遅刻することもなく、きちんと時間に間に合ってくるようになりますので、学校の現場からも何かMMできないかなということで、お話を聞かせていただきました。

【宮崎委員】：

タクシーも公共交通のひとつではありますが、バスとか電車に比べますと、タクシーはほとんど個人の利用者なのではないかなと感じがするのですが、タクシーも一応、公共交通ということで、現在の社会につきましても、やはり車社会が普通ですね。そういったことで、駐車場がないと、車を利用しないということになるのではないかなと思います。特に、金沢の近くに行きますと、観光の人がいますが、金沢は観光施設があるということで、近くに非常に固まっている、バスとか自転車とかタクシーを利用する人が増えてくるし、ただそれは今も昔も車社会なので難しいのではないかなと思いますが、やはり少しでも、公共交通があるのだ、公共交通を使わないと無くなるのだと伝えるのが大事なのかなと思います。

【茜委員】：

北陸鉄道グループの方で、路線バスの方も、生活路線の方も担当させていただいてございます。先ほど長田さんのご説明の資料を見させていただきまして、能美市における自家用車率の高さは、非常に愕然としています。バスは本当に0ということで、乗客が減ると、路線もダイヤも減らすとか、最近ですと乗務員不足で、路線をカットせざるを得ない、ダイヤを減らさざるを得ないという正直非常にこういった悪循環で私どもも反省しているところではございますけれども、のみバスはコミュニティバスの中でも最も努力されているバスではないかなと思います。今回も1便増便させていただくということで、乗務員を集めなくてはならないということで、頑張っている所ではあります、何とか少しでも我々も期待に答えて、この悪循環を断ち切りたいなと思っております。のみバスの乗務員について、のみバスの担当者は今8名でまわしているのですが、正直言いまして、能美市在住の方が一人もいません。なにとぞまた一つのみバスを運転したいという方がいらっしゃいましたらご紹介いただきたいなと思います。

【新谷委員】：

私が常日頃こちらに来て思うのは、よくぞこれだけ細かく計画変更ができるなというそれが直観です。ある意味から言いますと、それだけ市民の方の需要を細かく拾っていらっしゃるということで、我々事業者としても、ある意味見習わなくてはいけないなという気持ちを新たにさせていただける場所かなと思っております。

今日のMMに限らずですが、今後のこういった地方部における公共交通という方面の展開でございますが、なかなか同じサイズのバスを決まった時間に走らすというのは、たぶん今後においてはますます困難になってくるのではないかなと思います。地域によっては、例えば必要なときに呼び出して、来ていただくとか。例えば、車のサイズもバスの大きさではなく、もっともっと小さいワゴン車とか、そういうようなものを現在走らせているという地域がございます。法律的にもその辺りは規制緩和という今、時代になっていきますので、かなり弾力性があると言いますか、そういったような運用の仕方も可能だと聞いております。私ども事業者からすると、どうしても固定観念の下で、従来通りということで固い頭で考えてしまっていますが、逆に利用される方については、今ない形であってもこんなことができないかとか、こんな方法があるのではないのかとか、新しいアイデアをいただければなと思っております。いずれにしても、細かい需要をいかに拾っていくか、そんなところが大事なポイントかなと思っております。

【高山会長】：

どうもありがとうございました。ほぼ全員の方からご意見をいただきましてありがとうございます。おそらく元々このMMという考え方そのものは、心理学の方から発達して、土木の分野と言いますか、交通の分野で応用しているものなのですね。心理学ですから、一人一人の、心に訴える、要は行動変容と言う風に言っていますけど、「普段の自分の行動をどうやったら変えることができるか。」というところに味噌があるわけで、おそらく親の考え方を教えてもらう。そうすれば、子どもに対して、送ってくれると言うけど、天気もいいし、歩いて行ったらとか、遠い距離なら自転車を利用したらとか、のみバスすぐ来るから乗って行ったらとか、大事なのかなど。一つの事例ですけどね。歳いって免許返納すれば、どうしても車には乗れないわけで、そうなったときのことをやっぱり考えながら今から生活しないと、ずっとずっと能美市が豊かではないかもしれません。今は、税金でかなり網羅していますけど、そ

のうち人口が減って、働く人が少なくなれば、税金も少なくなつて、のみバスに投入できる予算も減る。先ほどバス会社から話があったように、運転手がいなくなれば、運転手の給料を上げないと、いい人が来てくれない。そうすると、料金は100円ではやれない。とこういうことになりますので、今はなんとかやっていますが、これを5年後、10年後、20年後…、本当に、自動運転になれば社会がそういう風になれば別ですけど、それはもう少し時間がかかるかなと思っています。議論しだすときりがないので、このMMの話については、以上でまとめたいと思います。どうもありがとうございました。それでは、少し飛ばしたところに戻らせていただいてよろしいですか。それでは、事務局の方で次第の4番目の方よろしくをお願いします。

4. 会長・副会長選任

【司会（中出）】：

それでは設置要綱に基づきまして、当会議の会長・副会長の選任に移りたいと思います。誠にせん越ですが、事務局にて会長を指名させていただきます。ご異議ございませんでしょうか。

【委員一同】：

異議なし。

【司会（中出）】：

ありがとうございます。それでは、事務局より金沢大学理工学研究域地域社会基盤学系・系長の高山委員に会長を指名させていただきたいと思いますが、異議ございませんでしょうか。

【委員一同】：

異議なし。（拍手）

【司会（中出）】：

ありがとうございます。会長を高山委員をお願いすることといたします。

【高山会長】：

引き続き会長を務めさせていただければなと思っています。

今も申し上げましたが、県内いろんな自治体があつて、それぞれいろんな形で公共交通の運行を進めております。非常に困っているのが、バス会社の運転手が今は何とかぎりぎりやりくりしているけど、そのうち難しくなってくる。どうしたもんかいな。こういうのが一番近々の課題になっています。もちろん、いつもバスが満席で、ある程度運用がうまくいってれば、それなりの運用の仕方もあるでしょうけど、議会からの空客が多いのではないかとこんな風に言われて、自治体の方も苦悩しているというのも聞きます。そう意味からすると、のみバスはそこまでひどくはないと認識しているのですが、このままおそらくのみバスもですね。今はまだ車に乗れないお年寄りがそこそこいますけど、そのうち車に乗れないお年寄りは、免許を返納したお年寄りだけになってしまいます。そうなるとどういふ社会になるかという、結局免許返納をするということは車にも乗れないわけですから、バスにも一人では乗りにくくなってくる。そうなると公共交通が利用できない。こういうことになると、この地域は廃れてきます

ので、地域全体として公共交通を守っていくことが大事かなと思います。いずれにしましても、そういうことから考えますと、地域公共交通会議というものは、非常に重要な役割を持っておりますので、ぜひこの場で、いろんな立場の委員個人としての意見でも結構ですし、団体の代表としての意見でも結構ですので、ぜひご意見を頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【司会（中出）】：

続きまして、設置要綱に基づき高山会長より副会長をご指名頂、副会長の選任を行いたいと思います。

【高山会長】：

はい。それでは副会長については、やはり市の責任者の一人であります、副市長さん、細川委員にお願いしたいと思っております。

【細川副会長】

引き続き副会長をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員一同】：

（拍手）

【司会（中出）】：

それでは協議事項に移りたいと思っております。進行につきましては、高山会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

5. 協議事項

【高山会長】：

はい。それではお配りしておりました式次第にそって、議事を進めたいと思っております。順番が逆になってしまいましたけれども、協議事項第57号「令和元年度辰口中学校冬季通学バス運行について」その内容について事務局より説明をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

－事務局（馬場）より資料説明－

- ・資料1 令和元年度辰口中学校冬季通学バス運行について

委員の皆さまには「令和元年度辰口中学校冬季通学バス運行について」ご説明した内容での事業の実施にご了承いただけますようご協議の程をお願いするものであります。高山会長ご協議の程よろしくお願いいたします。

【高山会長】：

はい。どうもありがとうございました。それでは事務局から冬季通学バスの運行についての説明をいただきましたが、何かご意見ご質問等ありましたら、挙手をお願いしたいと思います。いかがですか。

【田中策次郎委員】：

一つ質問ということで、まず質問する前に、このバス是非とも皆様のお力で継続していただきたいということを申し上げまして、一つだけ質問があるんですけども、このバスの車輛は通常の運行を行っていない回送の時間帯のバス車輛を利用してありますが、降雪時期ということで、もしバスが雪によって遅れるような場合があれば、どういう風な形で運行をされるのか、予定通りバスが来るということも想定されますが、どのような対応をされるのかというのが一つ、そして、運行実績まとめの中で、「平成29年度は大雪のため、4日間運休しました。」とございますが、この4日間運休するとき、いきなり来なくなると生徒さんにすごくご迷惑がかかると思うので、そういうところの対応というのはどういう風にされたかというお答えいただけますでしょうか。

【事務局（長田）】：

はい。それでは、ご質問にお答えさせていただきます。まず一点目のご質問なのですが、こちらバスの車輛に関しましては、冬季の通学バスの運行のために、2台の車輛を朝と夕方あえてあけて、全く運行しない時間帯となっております。ですので、朝バスが来ないということは、まずありません。バスのまわし方になっておりますので、その点はそのようにご理解いただければと思います。

二点目なのですが、一昨年、大雪の関係で4日間運休させていただきました。運休に関しましても、大雪が突然降ったりということもありましたので、中学校の教頭先生と密に連絡を取り合いまして、生徒さんにご迷惑がかけないように、連絡を取りながら運休の判断等、市と中学校とさせていただきましたので、今年もそういう状況がありましたら、前回同様、中学校と密に連絡を取って、生徒さんにご迷惑をかけないように対応したいと思っております。

【高山会長】：

はい。ありがとうございます。他に何かございますか。

【池田会長】：

私も運行そのものは賛成です。年間利用実績に延べ人数が書いてあると思うんですけど、バスを利用したことがある生徒、一回でも、それが何人くらいいるのかということと、バスのダイヤを見ると、山田とか岩内とか途中の、いわゆる先ほどの岩本・灯台笹地区の中にないような、ところの乗車時間が書いてありますが、ここの生徒も利用していいんですよ。というその二点です。

【事務局（長田）】：

実人数につきましては、今手元に資料がないのですが、バスの車輛は34人定員ですので、ほぼほぼ毎朝満車になっておりますので、実人数については毎朝30人～40人程度生徒さんが乗っていらっしゃると思っております。二点目のご質問の山田町、三ツ屋町方面になのですが、こちらの保護者の方にも運行のご案内をしておりますので、実際に昨年も山田町の生徒さんも利用されておりますので、岩本・灯台笹町方面以外の方もご利用しております。

【池田会長】：

実人数というのは、一日平均利用実績を見れば、バスが満員になることはわかりませんが、一回でも利用したことがある生徒が何人ほどいらっしゃるのかなということですね。

【事務局（長田）】：

そういった視点からのデータを取ったことがないですから、今年から取りたいと思います。

【高山会長】：

他にいかがですか。

【山岸委員】：

辰口中学校については、ぜひやってほしいんですけど、辰口小学校の冬季のスクールバスも運行されていますよね。バス2台確保しているというのは、また別で走っているのですかね。辰口小学校のスクールバスは高座、上徳山、上清水の方もまわっているんだけど、朝小学生は乗っているんですけども、中学生が乗ることも今後できるようになりますかね。時間帯的にどうなのかとか。

【事務局（中出）】：

すみません。小学校のスクールバスにつきましては、教育委員会の方で運行しておりますので、利用料は取っていないように思います。あくまでコミュニティバスの一環として、運行しておりますので、料金は100円となっております。今もバスの定員等もありますので、スクールバスに中学生が乗るとするのは、少し対象から外れるのではないのかなと思います。小学校も少し対象が時間もかかるし、人数も確保しないといけない、安全面とか、いろんなことがありますので、なかなか一緒というのは難しいと思っています。詳細につきましてはわかる範囲がこの程度なのですが、申し訳ありません。また、個別に対応させていただきたいと思います。

【山岸委員】：

ちょっと疑問に思いました。高座に住んでいるのですが、歩いて学校に行けというのは、冬期間とても女の子一人、難しいんですよね。そうした時に、親ないしおじいちゃん、おばあちゃんに送り迎えということがあるので、小学校がどうなっているのか疑問に思いました。ありがとうございました。

【高山会長】：

他にいかがですか。よろしいですか。それでは、先ほどから何人かの方からぜひこのバスを走らせて欲しいというご意見があつてよかったかと思いますが。反対だというご意見の方はおられますか。特にないようですので、この協議事項については承認してもよろしいでしょうか。

【委員一同】：

（拍手）

【高山会長】：

では、全会一致で承認とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。以上で今日の協議事項はこの一件だけなのですが、その他として何かご意見があれば、お聞きしたいと思いますが、何かございますでしょうか。

【事務局（馬場）】：

すみません。先ほどの私からの説明で訂正がありまして、1 ページ目なのですが、辰口中学校の学校概要というところで、全生徒数を誤って申してしまったのですが、493 名が正しい数値となっています。

【高山会長】：

説明の訂正でございます。その他何かございますでしょうか。特にご意見がないようでございますので、今日準備した、議題、意見交換含め以上でございます。それでは終了したいと思いますので。進行事務局にお返ししたいと思います。では、よろしく申し上げます。

7. 閉会

【事務局（中出）】：

高山会長、どうもありがとうございました。以上で協議事項がおわっておりますので、第 32 回能美市地域公共交通会議を終えさせていただきます。本日はご多忙の中お集まりいただきまして、どうもありがとうございました。

以上